

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年10月13日

【評価実施概要】

|       |   |       |        |
|-------|---|-------|--------|
| 事業所番号 | 1276200076  |       |        |
| 法人名   | 株式会社 いずみ  |       |        |
| 事業所名  | グループホーム はすぬま  |       |        |
| 所在地   | 〒289-1082 千葉県山武市蓮沼 口 2783-7<br>(電 話) 0475 - 86 - 2181 |       |        |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 コミュニティーケア研究所                                |       |        |
| 所在地   | 〒260-0028 千葉市中央区千葉港4-4 千葉県労働福祉センター                    |       |        |
| 訪問調査日 | 平成20年10月10日   | 評価確定日 | 11月12日 |

【情報提供票より】(20年9月5日事業所記入)

(1)組織概要

|       |            |                          |      |
|-------|------------|--------------------------|------|
| 開設年月日 | 平成16年10月1日 |                          |      |
| ユニット数 | 2 ユニット     | 利用定員数計                   | 18 人 |
| 職員数   | 7 人        | 常勤 14人, 非常勤 0人, 常勤換算 14人 |      |

(2)建物概要

|      |              |       |       |
|------|--------------|-------|-------|
| 建物構造 | コンクリートブロック造り |       |       |
|      | 2 階建ての       | 1 階 ~ | 2 階部分 |

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

|                     |               |       |  |       |
|---------------------|---------------|-------|--|-------|
| 家賃(平均月額)            | 39,000円       | その他   | 食材料費39,000円,水道光熱費15,000円,理美容代実費,おむつ代原価,医療費実費 |       |
| 保証金の有無<br>(入居一時金含む) | 無し            |       | 有りの場合<br>償却の有無                               |       |
| 食材料費                | 朝食            | 300 円 | 昼食   | 400 円 |
|                     | 夕食            | 500 円 | おやつ  | 100 円 |
|                     | 1日あたり 1,300 円 |       |  |       |

(4)利用者の概要(9月5日現在)

|       |           |         |         |    |      |
|-------|-----------|---------|---------|----|------|
| 利用者人数 | 18 名      | 男性      | 4 名     | 女性 | 14 名 |
| 要介護1  | 1 名       | 要介護2    | 2 名     |    |      |
| 要介護3  | 9 名       | 要介護4    | 4 名     |    |      |
| 要介護5  | 2 名       | 要支援2    | 0 名     |    |      |
| 年齢    | 平均 83.1 歳 | 最低 70 歳 | 最高 97 歳 |    |      |

(5)協力医療機関

|         |                            |  |  |  |
|---------|----------------------------|--|--|--|
| 協力医療機関名 | あきば病院(内科),成東病院(総合),郁栄会(歯科) |  |  |  |
|---------|----------------------------|--|--|--|


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

蓮沼海浜公園まで歩いて10分、天気が良ければ日の出が見られる500坪の広大な敷地に建つ、改築型グループホームである。毎日の生活に一応の予定はあるが、入居者一人ひとりには自分のペースで介護職員と共に掃除、洗濯、買物、調理などの日常生活の軽作業を、自ら進んで自分の役割としている。法人の代表と管理者は、認知症グループホームの各種研修の指導者をしていた経験から、職員の教育、訓練や待遇改善に熱心に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

|      |   |
|------|---|
| 重点項目 | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)  |
|      | 海岸に近く、風が強く汚れやすいので、清掃を十分にしよう指摘されてきた。従来の毎朝一回から現在は回数を増やして居室やリビングの清掃に努めているので、課題は改善され、環境は清潔に保たれている。  |
|      | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)   |
| 重点項目 | 今回の自己評価は管理者がまとめている。管理者は職員個々の特性を十分把握しているが、管理者が書いた自己評価が、どこまで職員に理解され実践されるのか、不明である。   |
|      | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)  |
| 重点項目 | 運営推進会議に参加する家族や地域住民は、一部のみに留まっている。多くの家族や近隣の方が、ホームの運営推進会議に関心を持ってくれるよう、説明や開催日時等の工夫が促される。地域主催の祭り等に参加したり、ホームの行事に招くなど、交流の機会を増やすことで、相互理解が進むと思われる。           |
|      | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)  |
| 重点項目 | ホームから毎月一回、入居者の生活状況や金銭明細などを、手紙や広報誌、電話などで伝えているので、苦情はほとんど寄せられていない。入居者や家族の気持ちや不安がどのようなものであるのか、絶えず注意し、折に触れ引き出すように心がけている。                                 |
|      | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)  |
| 重点項目 | ホームの大家さんが地域で活躍しているため、さまざまな情報が寄せられている。これによりボランティア受け入れや、入居者の持てる力に合わせた地域行事への参加が容易である。同ホームは市のグループホーム連絡会に参加しており、山武市の職員とともに『山武助け合い支え合いの街づくり』の活動にも取り組んでいる。 |

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

| 外部                    | 自己 | 項 目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)       |
|-----------------------|----|--|---|-------|--|
| <b>. 理念に基づく運営</b>     |    |  |   |       |  |
| 1. 理念と共有              |    |  |   |       |  |
| 1                     | 1  | 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている                                     | 5つの理念があり、その1つに「私たちは、あなたを地域の中の生活者としての役割りや交流を育てる援助をします」と掲げている。この地域密着型サービス事業者としての理念は、パンフレットにも記載されている。      |       |  |
| 2                     | 2  | 理念の共有と日々の取り組み<br>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる                                     | 理念は、掲示しているだけではなく、日ごろのミーティングやカンファレンスなどで管理者が機会あるごとに話し、職員は常に念頭に置いてケアに当たるようにしている。                           |       |  |
| 2. 地域との支えあい           |    |  |   |       |  |
| 3                     | 5  | 地域とのつきあい<br>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている               | 日ごろの買物や散歩での交流はもちろん、地域での祭事、清掃などに積極的に参加している。「子供110番の家」にもなっていて、地域の人々から理解と支援が得られるような関係作りに努めている。             |       |  |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 |    |  |   |       |  |
| 4                     | 7  | 評価の意義の理解と活用<br>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる                 | 昨年外部評価で指摘された一階の清掃については、海辺で風が強く古い建物という状態にもかかわらず、大掃除の日を決めたり、一日の内でも回数を増やして清潔の保持に努め、大幅な改善が見られた。             |       |  |
| 5                     | 8  | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回の運営推進会議には、地域代表としてホームの大家さんが時折参加するが、民生委員や市の相談員の参加はない。家族から出た意見は、リーダー会議で取り上げ、次回運営推進会議で回答できるよう取り組んでいる。 | ○     | 運営推進会議の構成メンバーの幅を広げ、参加者をより一層増やすことが望まれる。 |

| 外部              | 自己 | 項 目   | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)  | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)   |
|-----------------|----|---|--|-------|--|
| 6               | 9  | 市町村との連携<br>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる                               | 山武市の職員とはグループホーム連絡会で、サービスの質の向上に取り組んでいる他、日ごろから密接な連絡を取り合い運営を行っている。  | ○     | グループホームの事業者と市の職員が、グループホーム連絡会で山武市全体を助け合い支え合いの街づくりにするための話し合いを行っているので、大きな取り組みとして今後に期待したい。 |
| 4. 理念を实践するための体制 |    |   |  |       |  |
| 7               | 14 | 家族等への報告<br>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている                              | 定期的に広報誌を送付すると共に、一ヶ月の暮らしぶり、金銭出納、職員の異動などを報告している。また入居者個々にアルバムを作って、日常の様子を写真でも伝えており、家族の信頼を得ている。                       |       |  |
| 8               | 15 | 運営に関する家族等意見の反映<br>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                                | 家族の意見、苦情などの受付窓口を設置し、運営推進会議や面会時にも意識的な働きかけをしているが、ほとんど何も寄せられていない。ホームは、家族に選んでもらう形で提案をし、意見を求めて、信頼関係の構築、維持を図る工夫を続けている。 |       |  |
| 9               | 18 | 職員の異動等による影響への配慮<br>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | ユニットごとに職員を固定し、顔なじみの人が常に側にいる環境を整えて、支援を受けられる体制を築いている。異動のときには、新旧職員で顔つなぎのケアにあたり、入居者への影響を最小限にする配慮している。                |       |  |
| 5. 人材の育成と支援     |    |   |  |       |  |
| 10              | 19 | 職員を育てる取り組み<br>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている              | 管理者は、職員の定着率を高めるため、職員の個性を尊重し、一人ひとりの特性を生かした研修受講、資格取得ができるような体制を築いている。   |       |  |
| 11              | 20 | 同業者との交流を通じた向上<br>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている    | 法人の代表者と管理者は、様々な認知症ケア研修の指導者をしてきた経緯がある。千葉市と山武市のグループホーム連絡会に参加し、情報交換や相互訪問をすることにより、共に刺激を受けあう環境作りを熱心に行っている。            | ○     | 同業者の様々な工夫や情報は、職員のストレス解消になるばかりでなく、サービスの質の向上にも役立つので、管理者のみならず職員も参加する機会の確保が今後も求められる。       |

| 外部                               | 自己 | 項 目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------------|----|--|---|-------|----------------------------------|
| <b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>        |    |  |   |       |                                  |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応        |    |  |   |       |                                  |
| 12                               | 26 | <p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気になら馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p> | 入居前に必ず家族や本人に見学してもらい、安心感を持って入居できるよう配慮している。対応に配慮が必要な入居者の場合は、管理者が中心となって検討し、職員も納得した上でサービスの開始をする。  |       |                                  |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援        |    |  |   |       |                                  |
| 13                               | 27 | <p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>                      | 職員は、入居者から料理の味付けや清掃の仕方、人との係わり方などを学びながら、支えあう関係を築いている。一緒になって生活することにより、人生経験豊かな入居者から学ぶことが多いので、今後もこの視点を忘れないケアが求められる。  |       |                                  |
| <b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |    |  |   |       |                                  |
| 1. 一人ひとりの把握                      |    |  |   |       |                                  |
| 14                               | 33 | <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>   | 入居者一人ひとりについて、生活歴や日々の過ごし方を聴き取った「個別表」を作成している。これによる入居者理解をもとに、担当スタッフが入居後の日々の関わりの中で、いま何をしたいか、不満は何か等を把握しながら支援している。また認知症の人も健常者も同じ「生活者」との考えから、入居者を「認知症だから」という先入観で捉えないようにしている。そのノーマライゼーションの理念は、今後も大切にケアに活かすことが期待される。 |       |                                  |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し   |    |  |   |       |                                  |
| 15                               | 36 | <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>        | 入居者には2人ずつ担当スタッフを決めている。最初の介護計画はこの2人が中心となって本人・家族らの意向を汲みながら作成している。その後は月1回、必ず管理者と担当スタッフとで、状況変化に伴う変更を確認するなどのカンファレンスを行い、計画が適当であるか確認している。  |       |                                  |
| 16                               | 37 | <p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>    | 介護計画は月1回の見直しとともに、3ヶ月に1度は家族に送り、確認のサインを貰っている。希望欄も設け、家族からの意向が書き込めるようにしており、実際に書き込まれることが多い。  |       |                                  |

| 外部                          | 自己 | 項 目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)                                  |
|-----------------------------|----|--|---|-------|---|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援           |    |  |   |       |   |
| 17                          | 39 | 事業所の多機能性を活かした支援<br>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている                             | グループホームでデイサービスやショートステイまで行うのは人員、設備、費用などの関係で難しい。施設機能を活かす支援として、同ホームでは遠隔地の入居者が多いため、受診のつど家族が付き添うのは困難であり、病院への送迎・受診に職員が可能なかぎり付き添っている。                |       |   |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 |    |  |   |       |   |
| 18                          | 43 | かかりつけ医の受診支援<br>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している              | 協力医療機関は地元成東の総合病院であることを、入居時に本人・家族に説明し理解を得ている。受診は完全予約制で行われており、特に不都合はない。受診に際しては患者の情報をできるだけ医療者側に伝え、診療に役立つようにしている。                                 | ○     | 同病院以外にも近隣の内科、整形外科、耳鼻科等の病院・診療所と関係を深め、随時の受診が出来る体制を考えている。早期実現が期待される。 |
| 19                          | 47 | 重度化や終末期に向けた方針の共有<br>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 重度化した場合、入院するか、ホームで看取るかは本人・家族や医療機関と十分話し合っている。急変時には協力医療機関の協力が得られる。昨年(平成19年)、本人・家族の希望で、入院せずホームで看取ったケースがあり、海岸や馴染みの場所に連れ出すなど本人の気持ちに沿った介護を行った。      |       |   |
| . その人らしい暮らしを続けるための日々の支援     |    |  |   |       |   |
| 1. その人らしい暮らしの支援             |    |  |   |       |   |
| (1) 一人ひとりの尊重                |    |  |   |       |   |
| 20                          | 50 | プライバシーの確保の徹底<br>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない                          | 個人情報に記載された文書は必ずシュレッダーで裁断する。外部からの写真撮影依頼の際は、入居者が写ってもいいかどうか本人・家族に確認する。居室のドアに名札と本人の写真を貼ってあるが、それは自分の部屋を間違えないようにするため、家族も納得している。                     |       |   |
| 21                          | 52 | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している            | 入居者一人ひとりの生活ペースを優先させる支援を行っている。起床・入浴・お茶の時間はもとより、身だしなみ・理美容なども、できるだけ本人の「したい時」に「好きなように」してもらうことにしている。酒、タバコも自由だが、いまは酒を飲む人はいない。タバコは喫煙場所を決め、火の用心をしている。 |       |   |

| 外部                            | 自己 | 項 目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む)  |
|-------------------------------|----|--|---|-------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 |    |  |   |       |   |
| 22                            | 54 | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている    | 献立は入居者に「ご飯？ 麺類？」「おかずは肉？ 魚？」などと希望を聞き、毎日近くのスーパーで食材を購入している。買い物と一緒にいきたい入居者は、職員と共に出かける。車椅子の入居者も、希望があれば一緒に出かける。食事は入居者と職員が一緒に摂り、準備や片付けも共にしている。   |       |   |
| 23                            | 57 | 入浴を楽しむことができる支援<br>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している   | 入浴は、介助職員の手が空いていれば時間の別なくいつでも対応可能とし、入居者から「入りたい」との希望があるときはすぐに応えている。風呂嫌いの人も最低週2回の入浴を支援しており、「入るときは拒んでも、出るときは笑顔」の介助に努めている。                      |       |   |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 |    |  |   |       |   |
| 24                            | 59 | 役割、楽しみごと、気晴らしの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 入居者がホームの生活に張り合いを持てるよう、身につけた「得意わざ」を発揮してもらう場面づくりを積極的に進めている。趣味など入居前から意欲的に行っていた行動も続けてもらうようにしている。同居者の髪の毛のセットを上手に行う人、洗濯物のたたみ役、みそ汁づくりが得意な人などがいる。 |       |   |
| 25                            | 61 | 日常的な外出支援<br>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している                   | 無理に散歩に誘ったり、逆に外に出ようとする人を強制的に止めたりはしないようにしている。外出は1ヶ月に1回、入居者みんなで行っている。また今年(平成20年)は神奈川県鎌倉市に一泊旅行をした。  |       |   |
| (4) 安心と安全を支える支援               |    |  |   |       |   |
| 26                            | 66 | 鍵をかけないケアの実践<br>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる          | 原則として夜間以外は鍵をかけていない。その代わり玄関ドアにはポータブルチャイム、庭から外の道路に出る箇所には赤外線センサーを設けてあり、入居者の出入りにいち早く「気づく」態勢を作っている。止めるためではなく「一緒に出かけるためのセンサー」だとしている。            |       |   |
| 27                            | 71 | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている      | 災害に備え年2回、消防署の指導のもと避難訓練を行っている。災害時のリスクと対応については入居時に家族にも説明している。実際に災害が起きた場合、周囲からの援助の手が欠かせないため、地域との協力関係づくりを積極的に進めたいとしている。                       | ○     | 同ホームの2ユニットは1、2階に分かれて設けられている。地震や火災等の災害時、とくに夜間には2階の入居者の救助に困難が予想される。最悪の状況を想定した避難、救助の体制づくりについて、更なる検討と準備がなされることが期待される。 |

| 外部                         | 自己 | 項 目  | 取り組みの事実<br>(実施している内容・実施していない内容)   | ( 印 ) | 取り組みを期待したい内容<br>(すでに取組んでいることも含む) |
|----------------------------|----|--|---|-------|----------------------------------|
| (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 |    |  |   |       |                                  |
| 28                         | 77 | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている                                   | 入居者一人ひとりの栄養摂取や水分確保は、毎回の食事を重ねるなかで把握し、提供している。嚥下障害のある人には刻み食、ミキサー食等で対応している。食材はなるべく生ものを避け、熱処理したものを提供している。  |       |                                  |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり    |    |  |   |       |                                  |
| (1) 居心地のよい環境づくり            |    |  |   |       |                                  |
| 29                         | 81 | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 玄関前には花壇や案内看板を設けており、親しみやすい。庭木の手入れも定期的に業者に依頼している。玄関、浴室、廊下など共用部分は毎日必ず掃除している。壁には絵などを飾っている。元民宿を改装したホームなので、どうしても落ちない壁の汚れがあったりはするが、清掃がゆき届き、清潔にされている。 |       |                                  |
| 30                         | 83 | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている                   | 家で生活していた時と同じように、着慣れた衣類、使い慣れた家具等を居室に持ち込んでいる。換気や家具の配置にも気配りをしている。  |       |                                  |